



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 湯浅一郎 / 住所: 〒223-0062 横浜市港北区日吉本町1-30-27-4 日吉グリーン1F
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

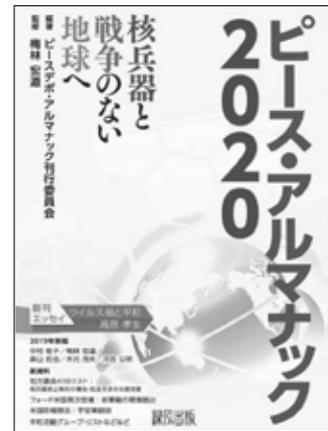
No.46

2020.7.1

「脱軍備・平和レポート」・「ピース・アルマナック」を刊行

コロナ禍の中、 新たなスタートを切りました

代表 湯浅一郎



新型コロナウイルス(COVID-19)感染の脅威が続く中、皆さまにはお元気でご活躍のことと思います。

4月7日、緊急事態宣言が出される中、ピースデポはテレワーク中心の事業運営に切り替え、事務所にはスタッフの内一人が常駐する体制とし、それ以外は自宅での勤務という形態をとりました。月2000円程度を投資し、安定したZoom会議を行うことで実質的には支障なく運営しています。

2月22日、正会員の雪野耕作さんが議長を務め、明治学院大白金校舎を会場に第21回総会を行いました。おりしも新型コロナ感染が広がり始めていた時でした。一部には中止すべきとの声もありましたが、まだ市中に広がっていないと判断し予定通り開催しました。昨年後半、検討した組織の在り方や事業の進め方に関する大きな方向転換を含む事業計画を総会で承認していただきました。主な2020年事業計画を次ページに示します。

その後、発足の趣旨である7本の柱を保持しつつ、若手中心に事業展開することを意図して、新たなスタートを切りました。これまで事業の中心にあった『核兵器・核実験モニター』を昨年末、休刊とした後、若手スタッフ森山拓也さんを編集長とする『脱軍備・平和レポート』を創刊し、隔月で3号まで刊行しました。『イアブック』に代わる『ピース・アルマナック2020』(年鑑)は、データや統計を多く含み、手元において活用しやすいものとするを念頭に編集を進め、この会報とともに会員の皆さんに発送するところまで来ました。一方、2020年NPT再検討会議はコロナ禍のため延期となり、ニューヨークで予定していた日韓NG

O共催での北東アジア非核兵器地帯をテーマとしたワークショップは中止しました。

組織的には、新規採用により3月23日から、渡辺洋介さんという語学に堪能な強力な新人が加わりスタッフ2名体制を回復させました(3ページ参照)。渡辺さんには、いきなりですが「ピース・アルマナック2020」の共同編集長になっていただき、予定通りの刊行に大きく寄与されました。スタッフ2名体制の復活により、各事業、プロジェクトの推進を担保する基盤ができ、近未来に向けて新たなスタートを切ることができました。

新型コロナウイルス感染の脅威は、しばらく継続すると覚悟せねばならない情勢です。現代文明の脆弱性、社会的差別の拡大などコロナ禍を通じて世界の矛盾がより鮮明に見えています。また、核兵器を初めとした「軍力で平和を担保する」という思想も問われており、核兵器廃絶や脱軍備は、その視点からますます切実なものとなっています。また私見ですが、2020年のコロナ禍は、人類に対して自然がお灸をすえているように見えます。人類が利潤追求と効率性を最優先させる経済活動を拡大させ、無制限に開発を推し進めることで、際限のない生物多様性の低減を引き起こしていることがコロナ禍のような感染症の発生要因ではないかと考えられるからです。

以上、昨年来、検討してきた大幅な事業変更に基づく2020年前半のピースデポの取り組み状況をお知らせし、今後とも、ともに歩んでいただけますよう心からお願いいたします。

ピースデポ 第21回総会記念講演会

北東アジアの非核化と平和について 市民社会がすべきこと

2月22日、ピースデポ第21回総会のあと記念講演会を明治学院大学白金校舎にて開催しました。憂慮する科学者同盟（UCS）のグレゴリー・カラッキーさんと当会特別顧問の

梅林宏道が講演し、参加者との質問を交えながら、南北・米朝首脳合意がある中で北東アジアの非核化と平和について市民社会がすべきことに関し、議論を深めました。



講演のあと質疑・討論するグレゴリー・カラッキーさん（左）と梅林宏道（右）（2020年2月22日 明治学院大学白金校舎）

2020年の主な事業計画

●事業プログラム

事業分野1 核兵器廃絶・不拡散へ日本の市民社会から寄与する活動

- [プログラム1] 外務省への要請を含め、「核兵器禁止条約」の発効を促進し、とりわけ日本の署名を促す
- [プログラム2] 地方議会における核兵器禁止条約への署名を求める意見書採択を広げる

事業分野2 「北東アジア非核兵器地帯」構想を促進する活動

- [プログラム1] 非核化合意・監視プロジェクトの推進
- [プログラム2] 北東アジア非核兵器地帯設立への政策転換を求める外務省への要請
- [プログラム3] 宗教者キャンペーン拡大の支援
- [プログラム4] 自治体首長「北東アジア非核兵器地帯」賛同署名の新たな取り組み模索

事業分野3 市民社会へ訴える活動

- [プログラム1] 次世代を担う新たな人材と出会う場をつくる「脱軍備・平和公開講座」（仮）を開講する。
- [プログラム2] NPT再検討会議へ若手を派遣し、北東アジア非核兵器地帯等をテーマとしたサイドイベントを開催する。

事業分野4 出版活動及びアウトリーチ活動

- [プログラム1] 『脱軍備・平和レポート』の発行
- [プログラム2] 『ピース・アルマナック』の発行

事業分野5 その他の活動

- [プログラム1] 核軍縮・不拡散議員連盟（PNND）支援
- [プログラム2] ウェブサイト等の改善とネットワークの拡大

●組織体制

- (1) 役員、スタッフ体制
- (2) ピースデポ「7本の柱」・次世代基金（梅林・湯浅基金）の運営
- (3) ピースデポにオーナーシップをもって関わる人材の拡大
 1. 『脱軍備・平和レポート』、『ピース・アルマナック』の編集委員に加わる人材の開拓
 2. 「脱軍備・平和公開講座」（仮）の運営に従事する人材を確保する。
- (4) 協力研究員を活かす
- (5) 会員、『レポート』購読者の拡大
- (6) 他機関との研究調査協力と平和活動のコーディネーション
- (7) 持続可能な助成財源である「よこはま夢ファンド」への協力者の拡大
- (8) 助成金・調査委託及び寄付金の開拓

欠席会員からの総会へのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から、激励・ご提案をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。

●世界情勢、国内情勢とも、より困難な中、とりくみの継続と新規構想に敬意を表します。今年は出席する予定でしたがコロナウイルス騒ぎで自粛して遠方への参加をあきらめました。残念です。講演内容には興味がありましたので、後日、何らかの形で目にする事ができればと思っています。大会の成功を祈念いたします。

●連載エッセー「全体を生きる」第24回の「アメリカ制裁の議論を始めよ」は正に今現在の問題の本質そのものですね。パレスチナ問題でも同じですが、アメリカのあまりに巨大な経済力と軍事力の前に世界が沈黙していることが核の脅威を広げている根源であると思います。

●事業分野3（市民社会へ訴える）の中に、沖縄、南西諸島（石垣島など）への自

衛隊施設建設計画と住民投票請求活動、自治条例などの問題を取り上げていただきたいです。

●モニターがレポートに代わるのですね。事務局の負担を考えると良いことだと思います。反核ネット京都も20年が経ちます。毎月集まりを続けています。ひとつの目標としていた2020年は今年。重要な年になりそうです。がんばりましょう。

●ニュースレターからレポートに代わってもWatch Dogの役割は充分に果たせると思います。核を手放したくない「国家」の論理を破れるのは、市民運動だけだと思います。引き続きがんばりましょう。

●『脱軍備・平和レポート』は一般の市民によりアピールするタイトルですね。

「非核化合意・監視プロジェクト」をいかに「北東アジア非核地帯」構想につなげるか、そのプロセスを具体的にデザインし現実化していく市民レベルの様々な試みが重要だと思います。そうした試みにおいて何か実質的な寄与ができればと私は考えています。

●東北アジアの重要性と先制使用の危険性を改めて感じております。ご盛會を祈ります。

●重要な年の総会のご成功を期待いたします。

●ピースデポを応援しています。私たちも代表委員会と重なり参加できませんが、イベントについてはふえみん紙で紹介しました。

新任研究員 からのご挨拶

渡辺 洋介



2020年3月末からピースデポの新任研究員となりました渡辺洋介と申します。ピースデポのある横浜市日吉は高校3年間と大学2年までの計5年間を過ごした思い出の場所で日吉という懐かしい地に戻って来られたことに何か強い縁を感じています。縁と言えば、梅林特別顧問のもとで働くことになったのも1つの縁かかもしれません。私は9条の会の方々と東京練馬で市民講座「東アジア近現代史連続セミナー」を運営しているのですが、2017年8月にこのセミナーに梅林さんを講師にお招きして「在日米軍を考える」という講演をしていただいたことがありました。当時、私が在日米軍について話のできる講師を探すことになり、インターネットで「在日米軍」と検索したところ、初めにヒットしたのが梅林さんの著書『在日米軍』だったのです。それを見て梅林さんに講師を依頼しようと思い、連絡先を調べてみたところ、辿り着いたのがピースデポのホームページでした。

それからもうすぐ3年ですが、そのピースデポで自分が働くことになるとは当時は夢にも思いませんでした。ただ、当時か

ら「軍事力に頼らない安全保障の実現を市民とともにめざす」というピースデポの趣旨には強い感銘を受けており、それまでその存在を知らなかった自分を恥ずかしく思ったことを覚えています。と言いますのは、私自身、戦争を防ぎ平和を実現するために一市民として何ができるかという問題意識から行動を続けてきたつもりだったからです。慶応義塾大学では国際政治のゼミに入り、修士論文では日本の総合安全保障を扱ったのですが、その理由は軍事力に頼らない安全保障を求めていたからでした。その後、シンガポール国立大学へ進み、博士論文はシンガポールにおける戦争の追悼と歴史教育を扱いました。そのテーマを選んだのは日本を含むアジア各国の若い世代に継承されている戦争の集団的記憶の違いが、アジア諸国間の平和と安定の阻害要因になっているという問題意識からでした。また、戦争を防ぎ平和を実現するには国境を越えた市民レベルでの交流と相互理解が不可欠だと思い、2008年から日中韓3国の学者、教育者、市民活動家が参加する「歴史認識と東アジアの平和フォーラム」に、2011年から3国の中高生向けの「東アジア青少年歴史体験キャンプ」に、2016年からは3国の学者と教育者が執筆する「日中韓三国共通歴史教材」の編集・執筆にも加わるようになりました。冒頭の市民講座「東アジア近現代史連続セミナー」も同様の趣旨から2015年に立ち上げました。

このように私はもともと核問題が専門ではないのですが、軍事力に頼らない平和をどう実現するかという問題意識から活動の幅を広げており、ピースデポで学べることは多いと感じています。そんな私ですが、どうぞよろしく願いいたします。

